防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第80号(2013. 11. 1)
事務局川西地区自主防災会

# 災害時のボランティア活動と社会福祉協議会の取り組みについて

社会福祉法人 香川県社会福祉協議会
事務局次長　日下 直和

県や市町の社会福祉協議会（以下「社協」という。）においては、主にはこれまで災害時におけるボランティア活動の支援体制の構築や、「災害に強いまちづくり」という観点からの地域づくりや防災活動に取り組んできました。

今回は、これまでの災害時における社協の主な取り組みをご紹介するとともに、まだまだ十分とは言えませんが、今後の社協としての備えや役割等について述べさせていただきます。

## □　これまでの主な取り組み

〈阪神・淡路大震災　－県内から４５名のボランティアが被災地支援に－〉

平成７年１月１７日に発生した阪神淡路大震災の被災地支援のため、香川県社協が募集したボランティア４５名が、同年２月に兵庫県淡路島の北淡町を中心に支援活動を行いました。支援には香川県・市町社協職員が同行してコーディネート業務にあたりました。現地では、避難されている高齢者や障害者の入浴送迎や救援物資の配送、被災家屋の片付けなどの活動を行いました。

阪神・淡路大震災では、全国から約１３７万人余りのボランティアの方が駆けつけました。これを契機に災害ボランティアという言葉が広く社会に認知されるようになり、その後、災害が起こった際の支援活動を推進する災害ボランティアセンターが、発災時には全国各地で設置されるようになりました。

〈香川県での台風災害　－県内で初めて災害ボランティアセンターを設置－〉

台風１６号により平成１６年８月３０日の夜に発生した高潮によって、県内の沿岸部が浸水し、大きな被害を受けました。その後、同年１０月に発生した台風２３号の豪雨により、全国はじめ県内でも河川の氾濫や土砂崩れが発生するなど、大変大きな被害がもたらされました。

これらの台風災害においては、市町社協や関係団体との協働により、県内では延べ

９か所で災害ボランティアセンターが設置され、この間、延べ６，１４４名のボランティアの方が、浸水した畳や家具、土砂の運び出しなどを行いました。また、香川県社協内に県災害ボランティア活動本部を初めて設置し、市町社協や行政、関係団体等との連絡調整と情報提供等の後方支援活動を行いました。

平成１６年の災害ボランティア活動では、災害ボランティアセンターの設置場所や資材の確保、関係団体の役割分担、コーディネート業務等全てが初めての経験で、運営上の課題も多々ありましたが、このことをきっかけに社協において、災害時におけるボランティア活動の支援体制づくりが急務であることを強く認識しました。

〈社協としての全国規模の支援体制で〉

平成２３年３月１１日の東日本大震災により、東北地方を中心に東日本一帯に甚大な被害がもたらされ、被災地でのさまざまな支援活動に対して、全国の社協関係者はそのネットワークを生かして、全国からの応援職員の派遣や義援金の募集、現地でのボランティア活動を希望する方への情報提供等を、全国規模で行いました。

社協職員派遣においては、県内市町社協と協力して同年３月２２日から８月３０日までに延べ６５名の社協職員を石巻市社協に派遣し、同市災害ボランティアセンターの運営支援等の活動を行いました。

また、香川県と共催で災害ボランティアバスを５回石巻市に派遣し、延べ　９０名の方が参加し、被災者支援のボランティア活動を行いました。

## □　災害に強いまちづくりを　－今後の取り組みと課題－

平成１６年の県内の台風災害をきっかけに、翌年には香川県社協や日赤香川県支部等の関係団体が呼びかけ団体となって、日ごろからまた災害時において連携・協力するための「香川県災害ボランティア協議会」が設置され、その後、同協議会で災害ボランティアセンター活動の手引きの作成等を行いました。

香川県災害ボランティア協議会については、東日本大震災等をきっかけに、今年その機能と名称の見直しを行うとともに、近く第１回目の協議会をあらためて開催することにしています。

また、今年度は香川県からの補助金等により、災害ボランティアセンター活動の手引き（マニュアル）の見直しや、災害時におけるボランティアセンター設置・運営の実際の訓練を実施することにしています。災害といっても地震と水害では対応は全く異なり、災害の規模等によって対応が変わってきます。「１００の災害があれば、１００の対応がある」とも言われており、いくら備えてもそのとおりにならない場面もあるかと思います。しかしながら、災害時の対応におけるさまざまな知識・技術の習得や、いろんな場面を想定したシミュレーションは必要不可欠です。

社協には地域の課題をネットワークで受け止め解決していく機能があります。災害時においては地域のあらゆる課題が一度に表面化し、それらの課題に臨機応変に対応することが、社協には求められる可能性があります。そのためには、社協が災害時に限らず、日ごろから地域の福祉関係者や住民の方と連携・協働し、「日ごろから顔の見える関係」をつくっていくことがとても重要です。

地域のなかの人と人とのつながりが弱くなっている今日、新たな地域でのつながりをつくっていくことが、災害に強いまちづくりにつながるものと考え、今後も社協としての活動を進めていきます。

KAGAWA Prefectural Council of Social Welfare　ふれあいネットワーク
社会福祉法人 香川県社会福祉協議会
http://www.kagawaken-shakyo.or.jp/

# 事務局だより

平成25年11月

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」の最近の活動を紹介します。

今月は、私が大会の実行委員長をつとめました第15回自然塾全国大会について、会員皆様に情報提供したいと思います。

開会の挨拶 岩崎実行委員長

この自然塾の始まりは平成8年ごろ、当時の高知県知事の橋本大二郎氏と東大教授でかつ総務省審議官だった月尾嘉男氏によって、四万十川流域で地域おこしとも言える勉強会を開いたのがスタートです。

歓談する小野琴平町長と浜田県知事

その後、北海道から九州まで山麓や美しい河川、里山、海峡などを舞台とし、自然環境保護をテーマとしたボランティア活動を行なうグループが塾を形成、塾長に月尾嘉男先生をいただく塾が全国に21ヵ所、誕生しています。

この塾生が毎年1回持ち回りで全国大会を開催して交流と研鑽をはぐくんでいるわけです。

今年の大会は、琴平町の公会堂をお借りして実施しましたが、地元町役場や社会福祉協議会、婦人会等の力強いご支援をいただき、盛大に開催することが出来ました。塾長である月尾嘉男東大名誉教授は世界各国の先住民族を回って、人間と自然環境が織りなす生活の知恵や自然を愛し、共存する生活習慣を通じて現代社会を営む私達に大きな示唆を与え続けております。

みんなで踊るこんぴら船ゝ

私も月尾先生にご教示と時にはお目玉をいただきながら約15年が過ぎました。

お陰で全国に多くの友人を得ることも出来ました。以下、全国大会の様子を写真でご紹介します。

＜寄稿　岩崎　正朔＞

琴平山へ、いざスタート

山中にて、藤本先生の講義

山中にて、藤本先生の講義

金刀比羅宮本殿に到着

金刀比羅宮奥社を目指して

ガイドの方と一緒にゆっくり下ります

手打ちうどんを作ってみます

金陵の郷

全国大会、開会です

前田宗一氏

月尾嘉男塾長

## 編集後記

今月の防災減災の輪は、香川県社会福祉協議会 日下様より原稿をお寄せいただきました。誠にありがとうございました。